

学校の検定試験 導入事例 【簿記能力検定】



本所 靖博先生

明治大学 経理研究所 様

全国経理教育協会（全経）の検定試験を学校で活用いただいている、明治大学 経理研究所の本所先生に、検定試験の活用状況や資格取得に取り組むメリットについてお伺いしました。

**公認会計士試験の予行練習として、全経簿記上級の学内受験を実施。
短答式試験合格の土台づくりや解答力を養うために授業に導入しています。**

学校の紹介をお願いします。

明治大学には、国家試験指導センターという難関国家試験の合格を目指す学生を支援する学内機関があります。その中にあるのが経理研究所で、公認会計士を目指す学生を支援するための受験指導機関です。1948年に設立され、専門学校がない頃から、大学教員と公認会計士のOBOGが会計士を目指す学生を支援してきました。私は2004年に明治大学農学部に着任し、経理研を担当して今年で20年目になります。

国家試験指導センターには、そのほか弁護士や裁判官を目指す法制研究所、キャリア官僚と言われる国家公務員を目指す行政研究所があります。

学校では全経のどの検定にいつ頃から取り組まれているのでしょうか？

私は会計学が専門なので、前職の短大で教えていた頃から全経のことは知っていました。

経理研究所で導入しているのは全経上級のみで、導入時期は2007年度からだと思います。

「簿記能力検定試験」を受けるのは、どのくらいの割合の学生さんですか？

また、合格率を教えてください。

現在、経理研究所では500人程が勉強しています。1学年あたりだと約150人で、そのうち全学年で年間100人くらい全経簿記上級を受験しています。

全経簿記上級の平均合格率は10～15%くらいですから、それより上を目指していますが、学内の合格率が15%を超える年もあるし、それを下回る年もあるという状況です。

「簿記能力検定試験」の上級を受けるための勉強はどのくらいの学習期間をかけるのでしょうか？

学内で開講している「計算基礎夏クラス」という会計士講座は、途中の学習目標として約半年の学習期間を経て上級に挑んでいます。上級には1～2回で合格する学生もいますが、短答式試験に合格するまで数回受験する学生もいます。簿記上級合格者のほとんどが短答式試験、論文式試験にも合格しています。

簿記上級について先生が指導する際に重点を置いているのはどんなところでしょうか？

インプットした簿記の知識をアウトプットできるかを重視しています。合格できる得点力を発揮するためには、繰り返し問題を解き、解答プロセスの下書きの書き方やなぜそのような答えになるのかを考えてマスターするように指導しています。偏差値的に合否が決まるところがあるので、それに対応できる解答力を身に着けるよう指導しています。

資格合格者に対する学校での優遇対応などがあれば教えてください。

奨励賞という奨学制度があり、合格者には表彰と受験料以上の副賞を授与しています。あとは、会計士講座初学者を対象とした特別会計研究室（和泉）では、自習室の固定席を与えられます。

授業に検定試験を導入するメリットとはどんなことがあるのでしょうか？

一番のメリットは、学習目標が明確になることです。短答式試験合格の目安にもなります。全経簿記上級が公認会計士試験の前に受けるのにちょうどよいのは、短答式試験の基礎レベルの内容であることや合格率が同じくらいの試験であるということです。

公認会計士の短答式試験合格率は 8～15%なので、簿記上級に合格することは、合格率 10～15%という門をクリアできる予行練習にもなります。

また、公認会計士試験を勉強していると周りにすごいといわれることが多いですが、短答式試験に合格するまでは簿記2級くらいしか合格していない学生が多く、自己評価と周囲の評価に落差があり、もやもやしたり、モチベーション維持に影響します。上級に合格すれば自信になり、検定試験にチャレンジするメリットがあります。

(2024年7月9日インタビュー)



令和5年度 公認会計士現役合格者報奨金・所長奨励賞授与式のポスター